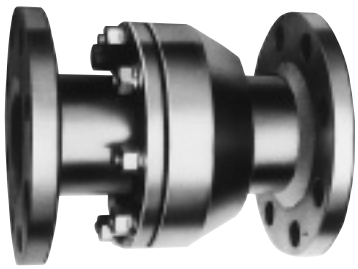
JU型 ボールジョイント

フランジ形・溶接形
SHASE-S007準拠品

製品記号 JU3 F -N(1.0MPa、フランジ)
JU3W-N(1.0MPa、溶接)
JU4 F -N(2.0MPa、フランジ)
JU4W-N(2.0MPa、溶接)

建築設備・空調設備 工場設備 免震建物 など 配管の伸縮・地震・地盤沈下対策

温度変化によって生じる管の軸方向の伸縮のほか、地盤沈下、地震等による軸心の移動、曲がり、ねじれ等、配管の変位を吸収します。高層ビル、地域冷暖房、プラント、貯蔵タンク、工場等に使用します。



JU-3F,4F型

JU-3W,4W型

■特 徴

- スーパーパッキンの使用によりシール性が優れています。
- 小さいスペースで大きな変位量がとれます。
- アンカに加わる力が小さいため、アンカを小型化できます。
- 配管の熱膨張や地盤沈下等の動きを同時に吸収することができます。

■仕 様

型式	JU-3F型	JU-3W型	JU-4F型	JU-4W型
製品記号	JU3F-N	JU3W-N	JU4F-N	JU4W-N
適用流体	蒸気・空気・ガス・冷温水・油			
流体温度	220℃以下			
最高使用圧力	1.0MPa		2.0MPa	
端接続	JIS 10K FFフランジ	突き合せ溶接	JIS 20K RFフランジ	突き合せ溶接
材質	ボール(SUS)、端管(STPG)、パッキン(グラファイト)			
	フランジ(SS)	―	フランジ(S25C)	―
本体耐圧試験	水圧にて1.5MPa		水圧にて3.0MPa	

注. 材質ALL SUS製も製作しています。

■寸法表

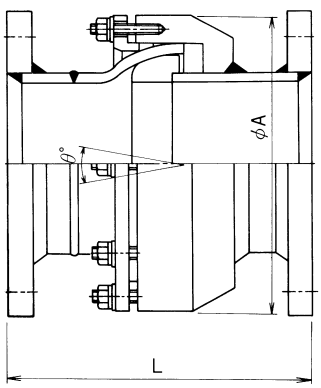
寸法 / 型式 / 呼び径	L(mm) JU-3F型 JU-4F型	L(mm) JU-3W型 JU-4W型	A(mm)	最大変位角 θ°	質量(kg) JU-3F型 JU-4F型	質量(kg) JU-3W型 JU-4W型	トルク(N・m) JU-3F型 JU-3W型	トルク(N・m) JU-4F型 JU-4W型
50	220	210	125	20	9(9.5)	5.5	200	200
65	240	230	145	20	12(12.5)	7.5	300	300
80	270	260	160	20	16.5	11.5	400	500
100	295	280	195	20	23.5	17.5	700	800
125	315	300	220	15	33.5	23.5	900	1100
150	325	310	255	15	71	59	1300	1600
200	375	360	335	15	86	70	2400	3100
250	390	430	395	15	130	110	4000	5200
300	430	480	465	15	163	142	6000	8200

注.（ ）内質量はJU-4F型の場合。

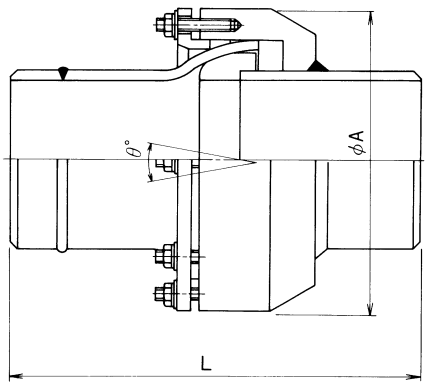
フランジ形のフランジ規格 JIS 10K FF、JIS 20K RF

■構造図

JU-3F,4F型



JU-3W,4W型



資料/JB型 ベローズ形伸縮管継手

■ベローズ材質SUS316Lについて

JIS B 2352ベローズ形伸縮管継手の規格では、ベローズの材料にSUS304、SUS304L、SUS316、SUS316L等を掲げています。弊社においては、ベローズ材質の生命とも言える耐食耐久性を重視し、ベローズを含む全接液部材料にSUS316Lを使用しています。このSUS316Lの材質は、SUS304とは比較するまでもなくSUS304Lと同等以上の性質を有するものです。参考までにSUS316LとSUS304Lの比較表を以下に記載します。

■SUS316LとSUS304Lの比較表

表1. 化学成分 (%)

種類	炭素 C	シリコン Si	マンガン Mn	リン P	イオウ S	ニッケル Ni	クロム Cr	モリブデン Mo
SUS316L	0.030以下	1.00以下	2.00以下	0.045以下	0.030以下	12.00～15.00	16.00～18.00	2.00～3.00
SUS304L	0.030以下	1.00以下	2.00以下	0.045以下	0.030以下	9.00～13.00	18.00～20.00	—

表2. 機械的性質

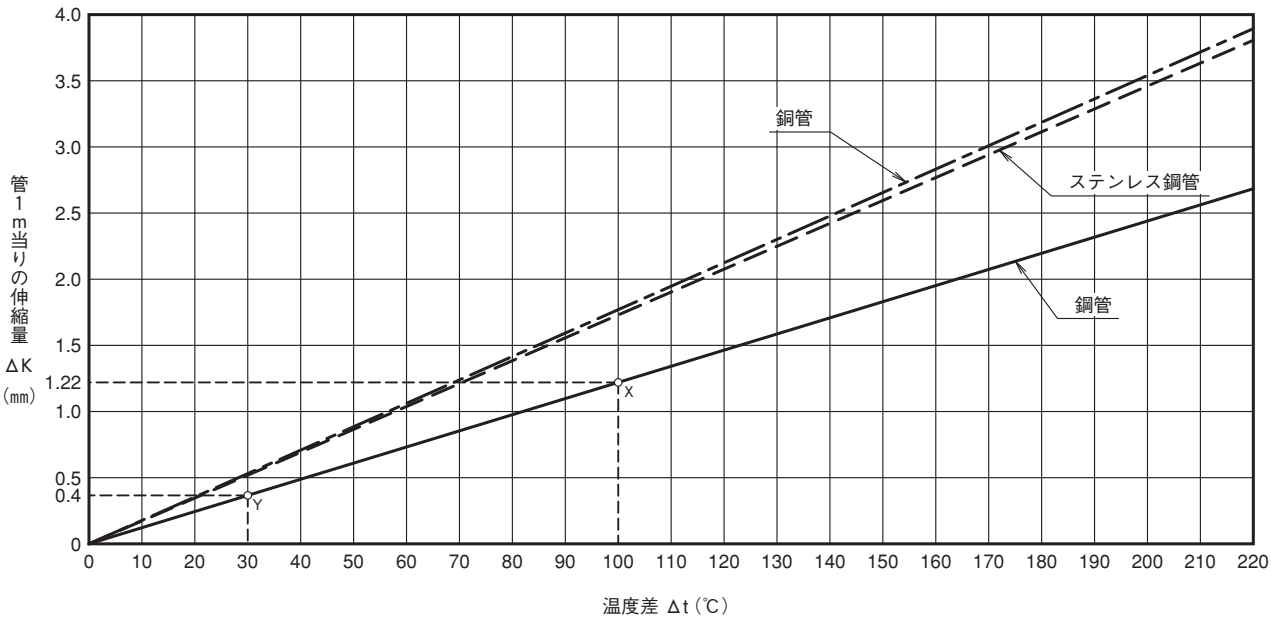
種類	引張試験			硬さ試験		
	耐力 (N/㎟)	引張強さ (N/㎟)	伸び (%)	HB	HRB	HV
SUS316L	175以上	480以上	40以上	187以下	90以下	200以下
SUS304L	175以上	480以上	40以上	187以下	90以下	200以下

表3. 耐食性

種類	全面腐食	粒界腐食	応力腐食割れ	孔食	隙間腐食
SUS316L	○	○	◎	◎	◎
SUS304L	○	○	○	○	○

注. ○：優れている ◎：より優れている

■図1. 管の1m当りの伸縮量



■伸縮管継手の選定

配管の材質、温度変化による伸縮量により、伸縮管継手の型式、本数を決定します。

●計算式 $n=\frac{\Delta \ell}{\delta}$

$$\Delta \ell = \beta \times \Delta t \times \ell$$

n	：継手本数	本
δ	：継手の最大伸縮長さ	mm
$\Delta \ell$	：管の伸縮量	mm
β	：管の線膨張係数	mm/m/℃
	鋼管	12.2×10^{-3}
	銅管	17.7×10^{-3}
	ステンレス鋼管	17.3×10^{-3}
Δt	：温度差	℃
ℓ	：管の長さ	m

●選定例

管の長さ（ℓ）：35m 、最高使用温度（t_1）：120℃

最低気温（t_2）：−10℃、取付時の気温（t_3）：20℃

の場合の伸縮管継手の型式および本数（n）を求めます。但し、管は鋼管とし、継手は基準面間寸法で選定します。

資料/JU型 ボールジョイント

《ボールジョイントの取付、使用法》

■配管の伸縮量の算定

$\delta = \beta \times \Delta t \times L$

δ：配管の伸縮量 mm

β：配管の線膨張係数

12.2×10^{-3}mm/m/℃（鋼管）

Δt：温度差 ℃

L：配管の長さ m

管の1m当りの伸縮量は、290頁図1からも求められます。

免震、地盤沈下、棟間変位を吸収する場合は、上記の伸縮量と変位量を加味します。

■ボールジョイントの取付位置

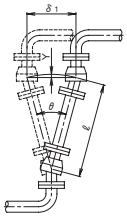
配管の伸縮が、吸収できるような場所であればどこでも構いませんが、軸方向変位の吸収の場合には、配管の曲部や立上り、立下り等を利用するとスペースをとらず便利です。

■2個のボールジョイントを使用する場合

《ボールジョイント間の距離の決定》

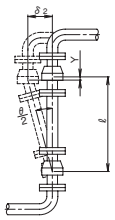
ボールジョイントを使用して配管を伸縮させるとボールジョイント間の距離ℓ、配管の伸縮量δ、ボールジョイントの変位角θ、安全率を1.5とするとℓは次の様になります。

図1



$$\ell \geqq \frac{\frac{\delta_1}{2}\times 1.5}{\sin\frac{\theta}{2}}$$

図2



$$\ell \geqq \frac{\delta_2\times 1.5}{\sin\frac{\theta}{2}}$$

■ボールジョイント間の距離ℓ

最大変位角	図1の場合	図2の場合
$\theta=45^\circ$（JU-10F,12F,14F,16F型）	$\ell \geqq 2\delta_1$	$\ell \geqq 4\delta_2$
$\theta=30^\circ$（JU-1, JU-11F,13F,15F,17F型）	$\ell \geqq 3\delta_1$	$\ell \geqq 6\delta_2$
$\theta=20^\circ$（JU-3～4型 100A以下）	$\ell \geqq 4.5\delta_1$	$\ell \geqq 9\delta_2$
$\theta=15^\circ$（JU-3～4型 125A以上）	$\ell \geqq 6\delta_1$	$\ell \geqq 12\delta_2$

《配管のたわみの算出》

ボールジョイントを2個使用する場合には配管が伸縮する際にたわみが生じます。このときに次の関係式が成立します。

図1では

$$Y = \ell - \sqrt{\ell^2 - \left(\frac{\delta_1}{2}\right)^2}$$

図2では

$$Y = \ell - \sqrt{\ell^2 - \delta_2^2}$$

ℓ：ボールジョイント間の距離 mm

δ_1：配管の伸縮量（図1の場合） mm

δ_2：配管の伸縮量（図2の場合） mm

Y：配管のたわみ量 mm

θ：ボールジョイントの変位角 度

計算結果は表1のようになります。

■表1．配管のたわみ量Y

（mm）

	配管の伸縮量 δ_1	40	60	80	100	150	200	300	400
	配管の伸縮量 δ_2	20	30	40	50	75	100	150	200
ボールジョイント間の距離ℓ	800	0.25	0.56	1.0	1.6	3.5	6.3	14.2	25.4
	1000	0.20	0.45	0.8	1.3	2.8	5.0	11.3	20.2
	1500	0.13	0.30	0.53	0.83	1.9	3.3	7.5	13.4
	2000	0.10	0.23	0.40	0.63	1.4	2.5	5.6	10.0
	2500	0.08	0.18	0.32	0.50	1.2	2.0	4.5	8.0
	3000	0.07	0.15	0.27	0.42	0.94	1.7	3.8	6.7
	4000	0.05	0.12	0.20	0.32	0.70	1.3	2.8	5.0
	5000	0.04	0.09	0.16	0.25	0.56	1.0	2.3	4.0

配管がたわむと配管に曲げモーメントが生じますので第1ガイドまでの距離は次式より求められる数値以上の距離が必要です。

$$X = f\sqrt{\frac{3EYD}{2\sigma}}$$

X：第1ガイドまでの最小距離 mm

f：安全係数 2以上

E：縦弾性係数 N/mm^2

Y：配管のたわみ量 mm

D：配管の外径 mm

σ：配管の許容応力 N/mm^2

鋼管※の場合、$E=191\times10^3 N/mm^2$、$\sigma=70N/mm^2$、f=2とすると、第1ガイドまでの最小距離Xは、表2のようになります。

※200℃の場合

■表2．第1ガイドまでの最小距離X

（mm）

たわみ量 / 呼び径	配管のたわみ量Y 1	2	4	6	8	10	12	14
25	800	1100	1600	1900	2200	2400	2700	2900
32	900	1200	1700	2100	2400	2700	3000	3200
40	1000	1300	1900	2300	2600	2900	3200	3400
50	1100	1500	2000	2500	2900	3200	3500	3800
65	1200	1700	2300	2800	3300	3600	4000	4300
80	1300	1800	2500	3000	3500	3900	4300	4600
100	1400	2000	2800	3400	4000	4400	4800	5200
125	1600	2100	3100	3800	4400	4900	5400	5800
150	1700	2400	3400	4100	4800	5300	5800	6300
200	2000	2700	3900	4700	5400	6100	6700	7200
250	2200	3000	4300	5200	6000	6800	7400	8000
300	2400	3300	4700	5700	6600	7400	8100	8700

注．ボールジョイントを3個使用する場合は、たわみが生じませんので第1ガイドは、ボールジョイントに接近させてください。

資料/JU型 ボールジョイント

⚠注意 設置時や運転に関する注意事項は、それぞれ別に用意された取扱説明書をご覧ください。

《ボールジョイントの取付、使用法》

■3個のボールジョイントを使用する場合

●一方向の配管の伸縮

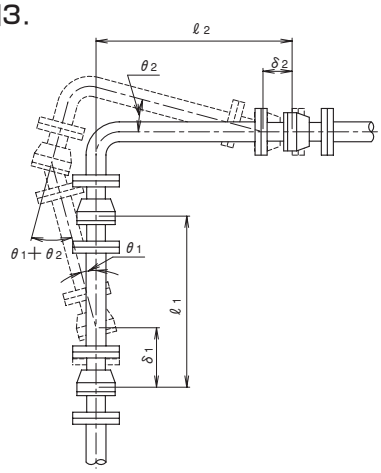
ボールジョイントを3個組合わせて使用することによって、2個組合わせ使用時に見られる配管上のたわみや曲げ応力を吸収することができます。

ボールジョイント間の距離 ℓ の求め方は2個組合わせ使用の場合と同一です。

●二方向の配管の伸縮

二方向の配管の伸縮を吸収する場合もボールジョイントを3個使用します。ボールジョイント間の距離 ℓ は、伸縮量 δ_1、δ_2のうち長い方を用いて $\ell_1 = \ell_2$として決めます。この場合の $\theta_1 + \theta_2$は許容変位角 $\left(\frac{\theta}{2}\right)$ の範囲に抑えてください。

図3.



■アンカ及び第1ガイドの設置

①アンカは、配管の両端及び配管伸縮量の振分点に設置します。

②第1ガイドはボールジョイントのできるだけ近くに設置します。但し2個のボールジョイントを使用する場合は、302頁表2によってください。

③アンカおよび第1ガイドは、負荷される荷重を次の式により算出し、これに十分耐え得る強度とします。

$$F_1 = \frac{2T}{\ell} \times 1000$$

$$F_2 = \frac{3EIY}{X^3}$$

$F_T = \sqrt{F_1^2 + F_2^2}$

$F_Z = \sqrt{F_A^2 + F_B^2 - 2F_A F_B \cos\alpha}$

$F_Z = \sqrt{F_A^2 + F_B^2}$（$\alpha = 90^\circ$の場合）

F_1：アンカ及びボールジョイント3個使用時の第1ガイド荷重 （N）
305頁表3参照

F_2：ボールジョイント2個使用時の第1ガイド荷重 （N）
305頁表4参照

F_T，F_Z：アンカの合成荷重 （N）

F_A：A配管軸方向荷重 （N）
図8参照

F_B：B配管軸方向荷重 （N）
図8参照

α：A，B配管のなす角度 （度）

ℓ：ボールジョイント間の距離 （mm）

T：ボールジョイントのトルク （N・m）
298～300頁寸法表参照

I：慣性モーメント （mm^4）

$$I = \frac{\pi}{64}(D^4 - d^4)$$

D：配管の外径　d：配管の内径

E：縦弾性係数　鋼管（200℃）の場合
$191 \times 10^3 N/mm^2$

X：第1ガイドまでの距離 （mm）

Y：配管のたわみ （mm）

■配管図　図4.

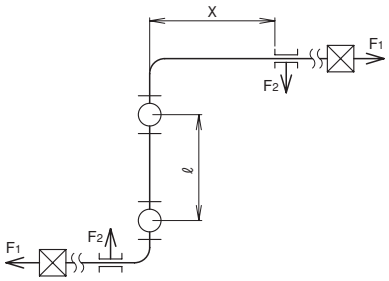


図5.

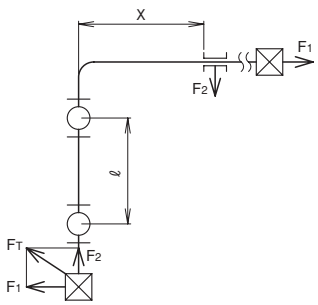


図6.

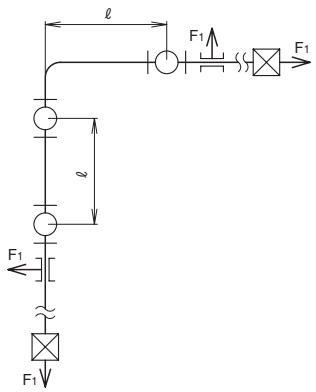


図7.

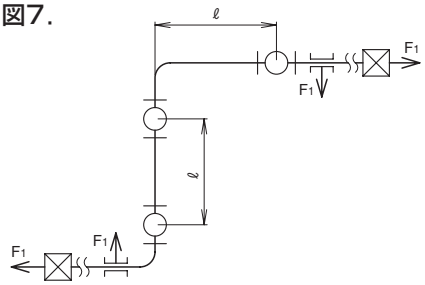
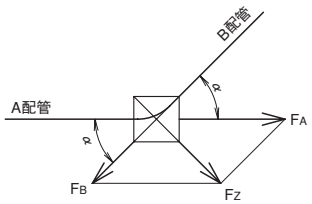
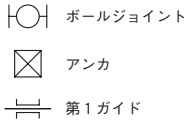


図8.



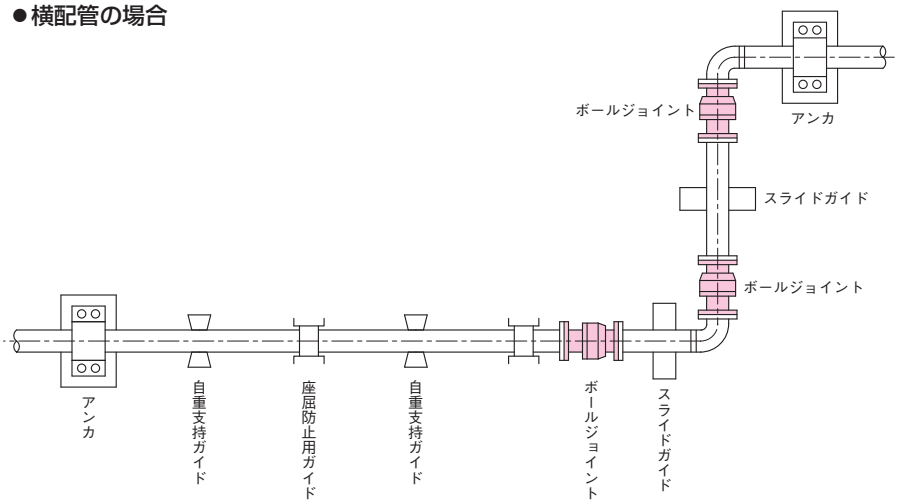


資料/JU型 ボールジョイント

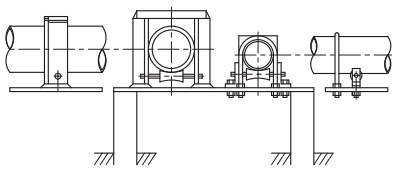
《ボールジョイントの取付、使用法》

■配管例略図

●横配管の場合

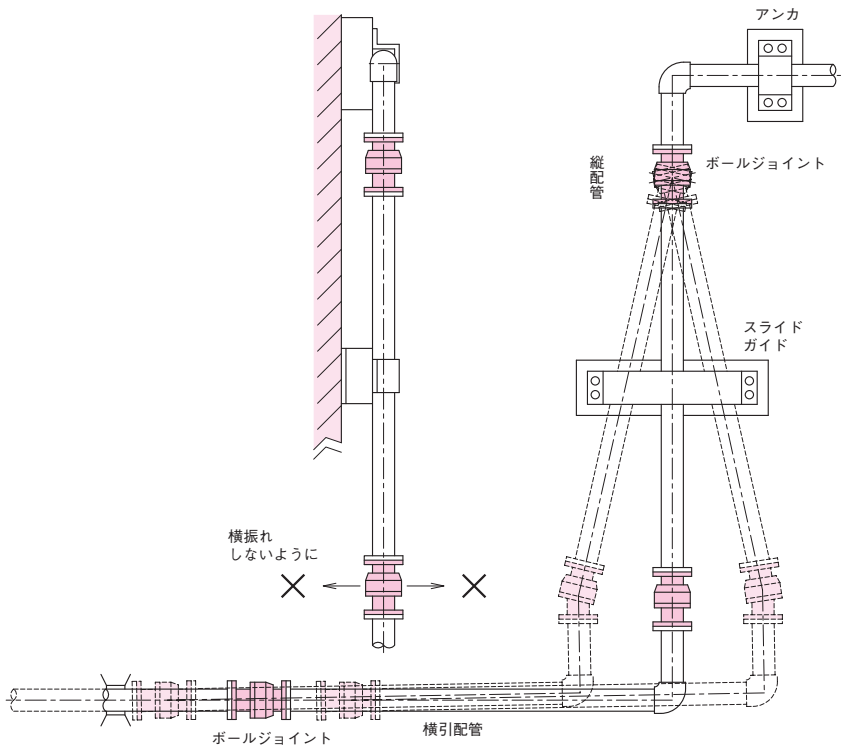


●挫屈防止用ガイドの例



●縦配管の場合

中間のボールジョイントがスライド方向に対し横振れしない様両側から挟み込むスライドガイドを縦配管（図示の位置）又は、横引配管に設置してください。



■ガイド

1.挫屈防止用ガイド

配管が正しく伸縮するためには、挫屈防止および配管質量の支持に必要なガイドを設けなければなりません。挫屈防止のガイド間隔は､次のように算出します。

$$L=\sqrt{\frac{\pi^2 EI}{fF}}$$

L：ガイド間隔	mm
F：管の軸方向荷重	N
E：管の縦弾性係数	N/mm^2
I：管の断面二次モーメント	mm^4
f：安全率	（3以上）

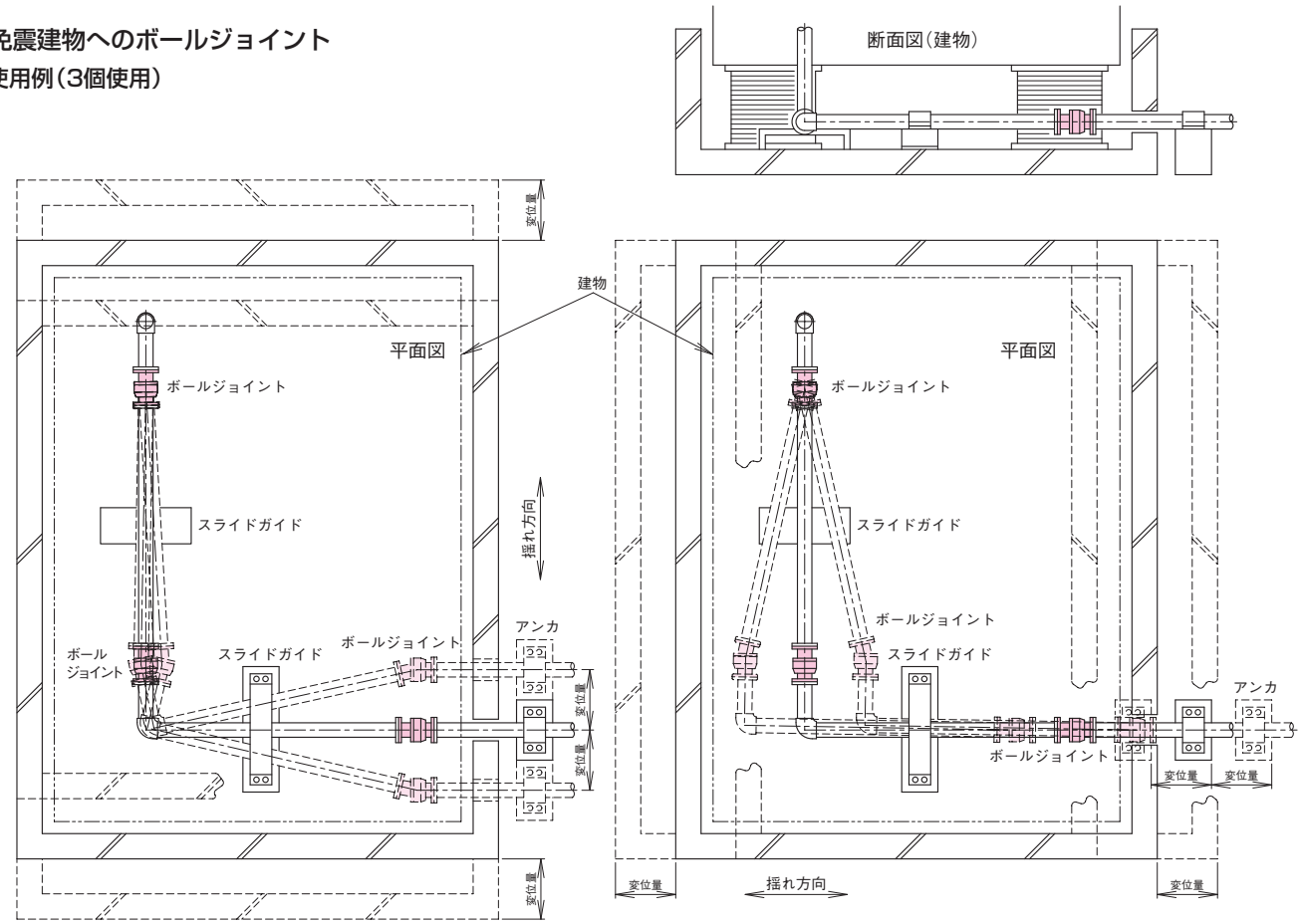
2.配管自重支持

配管の自重、流体の質量等によって配管は曲がりを生じることがあります。この曲がりを防止するためにローラー、ハンガー等のガイドを設けます。またボールジョイントとボールジョイントの間の配管は、横方向に移動しますのでスライドガイドを設けます。

資料/JU型 ボールジョイント

⚠注意 設置時やそれに関する注意事項は、それぞれ別に用意された取扱説明書をご覧ください。

■免震建物へのボールジョイント
使用例（3個使用）



■表3.圧力1.0MPa時のF1

(N)

呼び径	ボールジョイント間の距離 ℓ (mm)					
	1000	1500	2000	2500	3000	4000
50	400	270				
65	600	400				
80	800	540	400			
100	1400	940	700			
125		1200	900	720		
150		1740	1300	1040		
200		3200	2400	1920	1600	
250			4000	3200	2670	2000
300			6000	4800	4000	3000

注．表はJU-3F、JU-3W型の場合です。

■表4.たわみY＝1mm時のF2

(N)

呼び径	第一ガイドまでの距離X (mm)						
	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000
50	170	21	6.1	2.6			
65	430	54	16	6.8			
80	740	93	28	12			
100		220	65	28	14		
125		450	140	56	29		
150		810	240	110	52	30	
200			630	270	140	79	50
250			1360	580	300	170	110
300			2560	1080	560	320	210

注1．たわみがAmmのときは、A倍してください。
注2．表はJU-3F～4F、JU-3W～4W型の場合です。

(STPG Sch40)